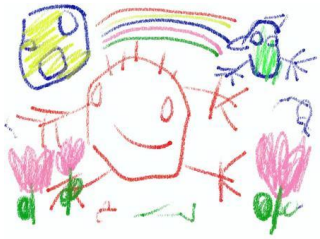

# 大人も育つ

園長　野中　泉

8 月の最後の土曜日、26 日は、昨年度のみかん組、卒園児の「子どもの懇談会」でした。今年も、22 名の子どもたちが、担任に会いに来てくれました。

子どもたちが、小学校での話をしたり、プールで遊んだりしている間、お父さん、お母さんたちも、久しぶりの懇談会。20 名の OB 保護者が集まりました。実は、親同志も集まって久しぶりに近況を話すらしいと聞いて、急遽、私も、お邪魔させてもらうことに。そこに、たまたま、熊取町に全国研修集会で来ていた私の友人たち 4 名と市原理事長のあわせて 5 名も了承を得て同席させてもらうことになりました。「友達の九州大学の先生やゼミ生もお邪魔してもいい？」と幹事役のお母さんに聞くと、「ぜんぜんいいですけど、なんてない話を集まってするだけですけど、そんなんでいいんですか？」と不思議そうな顔。そんなんでいいんです。そんなんがいいんです。アトムでは、何十年もの間、あたりまえに開かれてきた懇談会ですが、人と人が知り合う場やつながり合う場。本音で語り合う場をつくることが難しい現代社会の中で、ここに手がかりをもらいたい人たちが、実は全国にたくさんいるのです。

当日の懇談会は、さすが、6 年間語り合ってきた仲間たち、最初から卒園後のブランクを感じさせないリラックスした雰囲気でなごやかに話がすすんでいきます。

「うちの孫は、学校は自由がないっていってる。庭のメダカをじ～っと見てメダカはいいなぁ自由でとつぶやいていたらしい」「書道を習わせはじめたんだけど、本人は嫌がってやめたがってる。続けさせた方がいいのか、やめさせた方がいいのか悩んでるけど、みんなだったらどうする？」「うちの子は、学校いきしぶってる。めんどくさいって。どうしたもんか悩んでる」「学校に行ったら、こんなふうに親同士話す場がないから、友達の親の顔全然知らなくて困る」「子どもだけじゃなくて、親がアトムロスや」などなど、楽しく近況を語り合って、ひとしきりしたときに、私からこんな質問をさせてもらいました。「今日は、お客さんが何人かいるんだけど、その人たちに、みんなから、アトムをひとことで紹介してくれる？」。続けて 7･8 人に言ってもらったのですが、そのほとんどの人が、大きくわけると、ふたつのことを言いました。ひとつは、「家よりも家」「安心できる実家」「大きな家族」「すごく困ったら帰ってこようと思う場所」という紹介です。その中でも一人のお父さんが言った「家より家」という表現に、他の多くのお母さんたちも「それ、それ！」と大共感でした。そしてもうひとつは、「私が育てられた場所」「子どもも育ててもらったけど、親の私も育ててもらった」という紹介です。この自分が育ててもらったという人たちには、もうひとつ「どんなところが、アトムで育ったところ？」と質問しました。すると、そう言ってくれたふたりのお母さんは、う～んと悩んだ後、こんなふうに言いました。ひとりめは、「誰かに助けを求めるのがすごく苦手な私だった。でも、ここで、助けてって言っていいんやと教えてもらった」。ふたりめは「自分が生きてきた価値観以外の、価値観が世の中には、あるんやって教えてもらった」。

懇談会後、同席させてもらった友人のひとりが、こんなメッセージをくれました。

**『懇談会の空気ちょっと吸わせてもらって、ありがとうございました。ひとりひとりが、その人なりに語る。それを受け止める。応える。ほんとうに、そういうことなんですね。安心して自分の言葉を語れることが保障されている場で、違う価値観とも出会いながら、大人も育てられていく･･･。やはり、アトムはすごいなと、また思いました。』**

渦中にいると、忘れそうになる、アトムの「宝」を、外の人たち（卒園児のお母さん、お父さんや、来訪者に）、もう一度教えてもらった、そんなうれしい一日でした。